

やまと 民俗への招待

鹿谷 敦

6月23日、奈良民俗文化研究所の現地研究会を実施した。一行は私を含めて6人。午前9時半に近鉄生駒線東山駅に集合。ここから武智功研究員の案内で、生駒山東麓中腹を南下する。起伏のある広域農道（信貴フランワーロード）から菊畑が多く見える。久安寺大橋から竹藪の道を下ると久安寺北垣内の集落がある。午前10時から素盞鳴神社で植付け祭がある。

地元の向山弘司総代（自治会長）と鶴井俊夫宮總代にごあいさつし、いろいろ教えていただいた。

三郷町の巫女、坂本秀子さんが神主役を務めて、祭りが始まった。神樂も

行われ、終わると鉛でお被いを受ける。この後、湯釜に湯を沸かして湯立ヒヤシてが行われる。大和では「御湯」と呼ばれることが多い。



平群町久安寺での植付け祭の湯立て=筆者提供

き混せて周囲にも撒く。そして「もとのやしさに送り候おさめ候おんなおれ候」と神送りをする。終わると男女や子供、集まつた50人ほどの人々が、巫女の鉛と笛を頭上にいたぐ。「諸々の咎を祓え給え清め給え」「家内安全、身体健勝、交通安全」、子供には「どうか知恵を受けたまえ」と身に災いの降りかからぬよう、幸せになれるようにと坂本さんの心を込めた祈祷の声が境内に響く。終わると境内の会所に全員が集まって、和や

かな云食が始まった。
神を迎えて、清らかな
湯を周囲に振りかけて祓
い清めてから、神を送り
返すという「湯立神樂」
は県内各地で多様な形で
行われている。ここ久安
寺では、代々巫女を務め
て県内を巡る坂本家が出
仕して、集落と人々の安
全を祈り続けている。こ
うした巫女をところによ
つてはソネットンと呼
ぶ。久安寺の集落は現在
52戸、米作りは今は1軒
だという。多くは菊作り
農家であるが、田植え終
了後の植付け祭と住民の

表

次回は17日

11

次回は
17日